

# あの日あのとき②

このコーナーは、東日本大震災が発生した当時の様子などを皆さんにお聞きして連載していくコーナーです。

今回は、戸倉の波伝谷で農漁業を営み、作業中に被災した三浦さき子さんに話を聞きました。



三浦 さき子さん  
(◎波伝谷)

## 車が上下に弾む揺れ

あの日は、波伝谷にある直売所で若布の芯抜きをしていました。地震が起きたとき、目の前に止めてあった車を見ると、上下に弾みながら移動するほど大きな揺れでした。「ただごとではない。」と感じ、すぐに自宅へ向かいました。

自宅には、高齢の母親と高校2年生の孫がおり、とりあえず孫に「早く逃げろよ！」と伝え、足腰が弱い母親を車に乗せて、近くの高台に避難しました。そこには、30人ほどの人が避難していたと思います。高台から海を眺めると、海面が大きく盛り上がった状態で防波堤を乗り越え、津波が町になだれ込んできました。家屋を壊す「メリメリ！バリバリ！」という轟音が響きわたり、呆然と見ていることしかできませんでした。と、そのとき、目の前に信じられない光景が映ったのです。

## 自宅の屋根に孫が

なんと、避難したと思っていた孫が自宅の屋根の上に乗ったまま流れていたのです。「がんばれー！」と夢中で叫び、孫も「がんばっからー！」と答えました。正直、そのまま流されてしまうのではないかと

と思い、一緒に連れてこなかったことを悔やみました。その後、孫は流れが落ち着いたときに海に飛び込み、高台のふもとまで必死に泳いできました。助かったのです。

## チリ地震津波との違い

今回の津波は、私が小学6年生のときに体験したチリ地震津波と比べると、津波の勢いがものすごく強く、比べものにならないほどでした。また、あの大きな津波が来る前に、あまり潮が引かなかったというのも大きな特徴です。実際、チリ地震津波のときは自宅も大丈夫でしたので、流れが引いたら自宅へ戻ろうと思い、何も持たずに避難しました。「油断」と「思い込み」により、大切なものを失うところでした。

## 今後について

これからの時代を担う息子や孫たちに負担をかけたくないで、前向きに物事を考えて一歩ずつ前進していきたいと思います。また、町の復興については、議会と執行部が一丸となり、スピード感を持ってやらないと、いずれ町民がいなくなると思います。何も決まらなければ私たちも動けません。どうか町民のことを第一に考えて、復興に向けた取り組みをお願いしたいと思います。

## 編集後記

▶ 9月11日(日)、厳かな雰囲気で行われた慰霊祭は、吉川由美さんのプロデュースにより、綿密なりハーサルを経て執り行われました。吉川さんは、ビジネスマナーやコミュニケーションの講師として、数多くの企業・学校などで人材育成にあたり、南三陸町においては、「キリコ通り」や「アジアン・デイ」などのプロジェクトを通して、地域づくりに深く関わっている方です。また、司会を務めた渡辺祥子さんは、アナウンサー・朗読家として活躍されており、全国各地をまわって「被災地の心を伝えるお話し会」などの活動をされています。今年の2月に高野会館で行われた「女性が彩る観光まちづくりチャレンジ事業報告会」においては、南三陸町のストーリーなどを朗読で発表されています。当日の慰霊祭のなかで、どこか優しい雰囲気が漂っていたのは、女性ならではの感性による気配りや心配りによるもののような気がしました。  
担当 加藤

## わが家のアイドル



小野寺 武琉くん

(◎上沢)

平成22年12月27日生まれ

パパ 純さん

ママ 育子さん

### おうちの方より一言

武琉は我が家の宝物です。震災の時は生後2カ月だった武琉も、大勢の方々に助けていただき、ここまで大きくなりました。心から感謝いたします。元気で優しい子に育ってね！